釜ケ崎解放 7/28
全国日雇労働組合協議会
釜ケ崎支部 釜ケ崎日雇労働組合
電話 06－632－4273

4.21 宝塚市生きうめ労災事故死に対する、責任追及！/再開工事粉砕！の集中斗争を貫徹！

連日の現場斗争・市役所前座りこみ、野営の斗いで、再開工事を粉砕す！

仲間たち！

釜日労は、4月21日に、宝塚市発注の公共事業である、宝塚市営長尾山霊園の雨水排水管の埋設工事において、2名の仲間が生きうめになって死亡させられた労災事故に対する、宝塚市と元請、市橋組への責任追及！手抜き工事に居直った再開工事粉砕！の集中斗争を貫徹し、再開工事を連続4日間にわたって粉砕した。

この事故は、管を入れるために、深さ3mの穴を掘りながら、土砂止めの矢板を入れない完全な、安全対策の手抜き工事によって、徳山組（下請）の配管工である金さんと、韓国からの「出かせぎ」労働者で、尼崎・セーフティープールの人夫出しである宮本商店から日雇労働者として働いていた関さんの2名が、土砂くずれによって、穴の中で生きうめになったというものだ。

こうして、手抜き工事によって、労働者が死亡させられながら、公共事業の発注者として請負業者の安全管理を指導監督しなければならない宝塚市は、「市にはいっさい責任がない」と居直りつづけ、宝塚署、兵庫県警のポリ公とつるんで、市橋組・徳山組に「釜日労と話をするな！」と圧力をかけ、直接の下手人である市橋組の社長と、現場監督の平山を逃亡させつづけてきたのだ。

現場で働く日雇労働者であり、建設業における重層的な下請構造の末端でもっとも危険な仕事をやらされて、まっ先に手抜き工事で「殺され」るわしらの当然の要求である「この事故の原因と責任をあきらかにすること、②安全対策の改善を具体的に確約すること、③そのための大衆団交を、元請、市橋組、下請、徳山組を出席させて行うこと、④遺族に対して責任ある補償を行うこと」に対して、居直りと逃亡をくり返した上で、事故現場の工事だけは、ポリ公を導入して再開し

た、宝塚市と市橋組はぜったいにゆるされない。

今集中斗争は、この宝塚市の居直りと、市橋組の逃亡の上に立った7/3の工事再開の強行、すなわち「労働者が手抜き工事で死んでも、工事さえできればよい」との宣言、そして7/10の西宮労基署による下請、徳山組社長の労働安全衛生法違反での書類送検による「問題は終わった」との手抜き工事の清算の策動に対して、争議継続を宣言し、「手抜き工事によって労働者を殺しながら居直れば、どうなるのか」を奴らに思い知らせるための斗いなのだ！

連日の現場斗争・市役所前座わりこみ・野営の斗いを報告する。

第1日目 再開工事を阻止・徳山社長の証言・遺族の決起をかちとる！

第一日目の斗いは、約40名の部隊で、まず、工事再開現場である長尾山霊園に決起した。市・市橋・徳山は現場からトンコ工事を粉砕。その後、徳山の社長とバッタリ出会い、その場で責任を問答をかちとった。徳山のオヤジは「末端である自分だけが書類送検されたのはおかしい。再開工事で事故前の工法と変えたのは、以前のやり方では危なくて、徳山から市橋に工法を変えるよう要求して、市橋から市に言ってもらって変わったこと、市の工法上の責任を問う、重大な証言をかちとった。

昼からは、宝塚市庁舎前で座わり込み斗争に突入し、夕方、金さんの遺族が市当局との斗いに決起した。電話での話し合い要請に対して「補償問題は市には関係ないので、話をする立場にない」と拒否していた市当局も、遺族の決起にあわてふためき、門前ピケ話し合い拒否をつらぬくことができず、一応の話し合いに応ぜざるをえなかった。しかし、そこでも市当局は「補償については、市橋に工事代金をまだ払っていないので、差し押さえればよい」と、また再び業者にのみ責任を押しつけて居直ったのだ。

第2日目 兵庫県警・機動隊の導入による工事強行と実力対決！掘削作業・生コン車を阻止！

2日目の斗いは、わしらの連続斗争にビビった市当局が、兵庫県警の本庁公安と機動隊100名を導入して、工事を強行したことに対し、掘削用のコンボと土砂搬出用の4トンダンプの間に座わりこんで、掘削作業を実力で阻止。夕方の生コン車進入に対しては、霊園入口で説得活動をおこなって引きかえさせて阻止した。

市当局は30名の職員を動員し、ポリ公100名を合わせて、我々40名の3倍もいたが、両者とも介入することができず、スゴスゴと力なく引きかえさざるをえなかった。

第3・第4日目 再開工事を完全に阻止！勝利！

3日目・4日目は、前日のわしらの実力阻止の斗いにビビった市当局が再び工事を放棄して逃亡し、工事を完全に阻止した。昼からは市役所前で座わりこみ斗争を貫徹し、勝利した。

さらに斗いをつよめていこう！